

Standard

河北スポーツマガジン

スタンダード

宮城

https://kahokustandard.jp 定価:850円

中学・小学硬式野球特集2023

白球に懸けた 熱き夏

全45チーム
紹介

宮城県
ラグビー特集2023

情熱闘球

高校ラグビー選手名鑑

17チーム
紹介

名伯楽の 探訪記

阿部由晴常盤木学園高校
サッカー部監督が行く

深松組

深松努

代表取締役社長

2023 9-10 Vol.

55

宮城県高校競技かるた特集
競技かるたの聖地
近江神宮への道標

2023小学生大会・全国大会
出場チーム紹介特集

共に過ごした
熱闘の夏

第72回宮城県中学総体プレーバック

躍動の記録



ペガルタ仙台

小出悠太

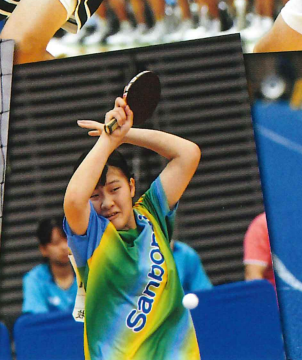
菅田真啓

宮城県農業高校

ウエイトリフティング部

多賀城高校

サッカー部



名伯楽の探訪記

阿部由晴常盤木学園高校サッカー部監督が行く

訪問先／深松組 深松努代表取締役社長

常盤木学園高校サッカー部の阿部由晴監督がホスト役となり、部活動やスポーツ文化をテーマに語り合うこの企画。15回目となる今回のお相手は、多種多様な取り組みで経済界に常に刺激を与え続けている深松組の深松努社長。深松社長は仙台市に拠点を置く企業がスポーツ競技の経験者や元アスリートを社員として雇用、仙台市立中学校の運動部に指導者として派遣する「部活支援プロジェクト」の発起人でもある。同プロジェクトの具体的な内容や、進捗に強い興味を持つ阿部監督は深松社長に直接話を伺おうと、昨年新築された深松組の新社屋を訪ねた。

撮影●松橋隆樹 構成●平川元

子どもの成長を止めない
指導環境をつくりたい

阿部●深松社長とは以前からお付き合いがありますし、いろいろ率先して、建築土木業の視点からより良いまちづくりに腐心してきたことを存じ上げています。それでも、仙台経済同友会の中で「部活支援プロジェクト」を起こされたのには驚かされました。

深松●きっかけは、端的に言うとうちの娘ですね。娘はスポーツ少年団でミニバスケットボールをやって、中学に上がったらバスケットボール部で頑張ろうと思っていたわけです。しかし、中学に入ってから顧問の先生がバドミントンをやってきた方で、バスケの

経験はないと。これはその先生の問題ではないですよ。さまざまな理由、事情があつて、その学校ではその先生にバスケの顧問をやってほしい、となっただけですから。ただ、やっぱり違うスポーツをやっているの、指導法がいきなり身に付くわけではない。どうしたって、結果はなかなか出ない。それが2年生の後半になって、経験者の指導者が就いて、ぐんと選手として伸びたんですね。目に見えるように成長していったのですが、経験者の指導者の方が来てくれたのは3年生の中学総体まであと数カ月というタイミングだったわけですから、県の上位に入ることはできなかった。それで、娘たち自身もそうだし、私を含めた親たちも、もうちょっと何とかしてあげたかったなっていうのもやもやとした思いがありました。それは何年も前のことにはなるのですが、ずっと頭に残って気になっていたんです。それが、中学校の部活動が地域移行するって話が出て、結構テレビなんかでも特集されて、これはなかなか大変だなと。できることはないかと考えて、仙台経済同友会で話題にしたところ、話がまとまって「部活支援プロジェクト」をやることになりました。

阿部●この「部活支援プロジェクト」に関することなので、先にお伺いしますが、そもそも中学校教員の置かれた指導環境については、どういうお考えをお持ちでしょうか。

深松●じかに触れてきた部分と、漏れ

深松組代表取締役社長

Tsutomu Fukamatsu

profile 深松努（ふかまつ・つとむ）●1965年3月3日生まれ、富山県出身。深松組代表取締役社長。日大卒業後、前田建設工業に入社。先端土木の経験を積み、92年に深松組入社。2008年に先代社長である父親から引き継ぎ、代表取締役社長に就任。18年からは仙台建設業協会第4代会長も務める。東日本大震災が起こった当時は、発災直後から社員を率い救助、復旧作業の先頭に立つ。その後、東日本大震災での経験を伝える講演活動にも精力的に取り組んでいる。22年、自信も名を連ねる仙台経済同友会で「部活支援プロジェクト」を立ち上げた。

深松努

常盤木学園高校 サッカー部監督

Yoshiharu Abe

profile 阿部由晴（あべ・よしはる）●1962年8月30日生まれ、仙台市出身。東北学院大卒業後、仙台大へ編入し保健体育科の教員免許を取得。95年から常盤木学園高校サッカー部を率いており、以来28年間で全日本高校女子サッカー選手権大会での5度を含め、17個の全国タイトルを獲得している。なでしこジャパンが優勝した2011年の女子ワールドカップドイツ大会には熊谷紗希ら、3人の教え子がメンバー入り。熊谷は今夏のオーストラリア・ニュージーランド大会にも出場、主将としてチームを引っ張りベスト8進出に貢献した。

阿部由晴

伝わってきた話も総合してですが、これは大変な仕事だな、というのが率直な思いです。先生の業務って本当に多いんですよね。子どもを相手にして、まず、時にいじめ対応なんかもありますよね。夜10時を過ぎてようやく家に帰れる先生がゴロゴロいると。精神的に参ってしまつて学校に行けない方も多い。これは公立学校というくくりなので、中学校だけではありませんが、2021年度は全国で精神的な病気で休職されている教員が過去最多の5897人だったそうです。

阿部 このプロジェクトには中学教員をサポートする意味合いも込められている。

深松 部活指導が負担になっているのであれば、軽減してあげたほうが健全です。自分の専門じゃないスポーツを教えるのもストレスになりますしね。私たちに何か先生方をバックアップできることがあれば、したほうがいいと。そういう考え方です。

元選手のセカンドキャリアに一つの在り方を示す

阿部 このプロジェクトは、仙台経済同友会の加盟各社はじめ、仙台市の企業が、長く一線でスポーツをやってきた人たちを社員として雇用し、仙台の公立中学校の運動部に指導員として派遣する、というスキームですね。

深松 その通りです。もう一つ強調したい要素があって、それは元プロアスリートですね。仙台には、野球の東北

楽天ゴールデンイーグルス、サッカーのベガルタ仙台、バスケの仙台89ERS、女子サッカーのマイナビ仙台レディース、女子バレーボールのリガール仙台など、多くのプロスポーツチームがあります。それらのチームで現役を終えた元選手の人たちの就業支援にもなればと思っているんです。

阿部 このところ、話題に上がるのですが、具体的な就労の場を与えたいと。

深松 プロ野球選手なんかは引退後、飲食店を経営して、というような方も多いですが、せっかくそれぞれのスポーツを好きでやってきて、トップレベルまで経験している人たちですから、その経験や力を生かさない手はないなと。もちろん、入社したらその入社した会社の仕事はやつてもらつて月給を払います。その上で、週に1、2回ほど、午後3時から夕方から仙台市内の公立中学校に行つて、部活の指導を

してもらおう。元プロ選手にはこのプロジェクトを通じて、中学生と触れ合つて、自分がやつてきたスポーツを教えることにやりがいを感じてほしいんですよ。教えられた生徒は絶対伸びますよ。伸びると勝てるし、勝てれば一生懸命また練習するんです。家に帰って、夕飯を食べて、お風呂に入つて、宿題やつたら、それでもうすぐ寝ちゃいますよ。私の持論ですが、余計な時間があると子どもはいじめに走るんです。自分が夢中になって取り組んでいるものがあれば、いじめなんて起きません。そんな暇はないし、そもそもそんな気にならないし。一生懸命自分の好きなことに打ち込む、その手助けを元プロ選手はより高い次元でできるのではないかなと思いますね。

また、プロまでは行けなかったけど、社会人、大学までそれぞれのレベルで活躍したという方もこのプロジェクトの対象ですから、仙台経済同友会加盟企業をはじめ大いに採用を増やしていきたいですね。元プロ選手にはこのプロジェクトを通じて、中学生と触れ合つて、自分がやつてきたスポーツを教えることにやりがいを感じてほしいんですよ。教えられた生徒は絶対伸びますよ。伸びると勝てるし、勝てれば一生懸命また練習するんです。家に帰って、夕飯を食べて、お風呂に入つて、宿題やつたら、それでもうすぐ寝ちゃいますよ。私の持論ですが、余計な時間があると子どもはいじめに走るんです。自分が夢中になって取り組んでいるものがあれば、いじめなんて起きません。そんな暇はないし、そもそもそんな気にならないし。一生懸命自分の好きなことに打ち込む、その手助けを元プロ選手はより高い次元でできるのではないかなと思いますね。

名伯楽の探訪記

阿部由晴常盤木学園高校サッカー部監督が行く



かつてより交流のある2人。子どもたちの健全育成のために、大人がより良い教育環境を整えていかなければいけないというスタンスは一緒だ

のプロジェクトをどんどん大きくしていきたいですね。そうしたら、仙台市にもいいということだ。「五方よし」ですね（笑）。さらに言えば、自分たちだけじゃなく、幸せの輪は広がった方がいいわけですから、この「部活支援プロジェクト」で培ったノウハウを仙台モデルとして提供して他の都市でも取り組んでもらう。日本を元気づける一つの運動になるかもしれない（笑）。

あと、企業が元選手を雇つて指導者を派遣するという他に、もともとスポーツチームを抱えている企業さん、特に全国展開している大企業さんなんかはいろんなチームを持っているじゃないですか。そういう企業さんには、自社の選手たちにいろんな中学校の子どもたちの指導を行つてもらおうというやり方もあります。さらには、部活指導プロジェクトに協力したいけど、元選手の雇用は諸事情で難しく、スポーツチームもないという場合、今、バツ

教育現場には忍耐や我慢、理不尽を教える役割がある

部活動向け野球教室の運営をやつてもらっています。その教室のスポンサーになって協力いただくという形もあります。ゆくゆくはこのやり方も野球だけじゃなく、他のスポーツに広げていきたいですね。中学部活動向け野球教室は、三井不動産レジデンシャルさんが真っ先に手を挙げてくださり、今年度中に6回提供してくださるということですし、その他数社と今、話がまとまっています。

阿部 私は文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」について、現場の状況を分かっておらず、問題だと思っていますし、そもそも文科省はトンチンカンですよ。アクティブ・ラーニングとお題目を掲げて、生徒一人一人が能動的に振る舞えるようにするとか言っているけど、社会では

まずいきなりばつと出の新人が能動的

にないです。その会社、業界について知らないんだから。でも、そうやっていわば、誰もが「主役」として学校生活を送つてきてしまふから、自分の置かれた状況にギャップを感じて、すぐに仕事を辞めることにもつながってしまう。こうした背景があつて、私は就職3年後離職率が高いという事態が起きていると思つています。やっぱり、忍耐や我慢も覚えなければならぬ、理不尽は社会にあるということを経験現場の中で教えていか

ない。部活ってだから、大事なんですよ。中学、高校であれば3学年が一緒に行動して、そこにはもちろんいろんなことが起きて、でも、それを乗り越えて一体になるんです。部活を通して、社会で活躍できる人間をつくる、部活にはそうした機能があります。

深松 駄目なもの駄目だつて知らない、人間は成長しません。その意味でも、今の阿部先生の話はふに落ちるものがある。

阿部 せっかく深松社長をはじめ、仙台経済同友会さんは中学校の部活に目を向けて、実際にいろんなことを始めてくださっているのだから、周りもそれをより良く生かすことを考える必要がありますね。今日は貴重なお時間ありがとうございます。これからいろいろお話しさせていただきます。

深松 いやいや、こちらこそありがとうございます。いろいろ語り合いました。